

1. 自分の力を知り、学習スタイルを確立せよ！

3年生の皆さん、中間考査が終わり、高校生活最後の県総体も終わりましたね。結果はどうでしたか。準備は万端でしたか。日頃の成果が発揮できた人もいれば、思うような結果が出なかった人もいます。しかし気持ちを切り替えて、受験生としての自覚を持って日々の学習に取り組んでほしいものです。いよいよ補習も始まります。「為せば成るノート」を見ながら、自分の学習スタイルや生活リズムを見直してみましよう。



“できる受験生”になれる高校3年間の過ごし方

○3年生 いよいよ受験生。折れない気持ちで走り抜く

◇受験生の意識を持って計画と戦略を

- ・年間計画と学習戦略 まずは、しっかりとした年間学習計画を立てましょう。①夏休み終了までに基礎を固める(インプット学習)、②2学期は問題演習を通して応用力を養成する(アウトプット学習)、③3学期には過去問演習で実践力を養成するというのが、一般選抜に向けたスケジュールです。いつ、何に、どれぐらい取り組むのか、具体的な学習メニューをスケジュール帳に落とし込んでいきましょう。大切なのは「いつからやるか」ではなく、「いつまでに終わらせるか」です。
- ・どの入試スタイルで勝負するのか 総合型選抜の出願は9月、学校推薦型選抜は11月から始まります。進級半年後には受験シーズンに突入する人も…。先生や保護者とよく相談し、勝負する入試スタイルから逆算した計画を立てましょう。学校推薦型・総合型選抜を受験する人は、面接(プレゼン、口頭試問)や小論文対策も意識しなければいけません。秋になってから周りにつられて、自分も推薦入試を受けようかな…というパターンの人は失敗することが多いようです。

◇「夏は入試の天王山」と心得る

- ・気合いだけでは乗り切れない 夏期講習をたくさん受講し、今年の夏はよく勉強したなあと自己満足している人や、抜け漏れを補強しないまま、背伸びをして実力以上の問題に取り組んだ人が、夏休み明けの模試結果を見てショックを受けるという場面をよく目にします。授業や講習に頼った「受け身」の学習だけでは、受験学力は伸びません。「だいたいわかる」ことを「確実にできる」レベルにもっていくことで得点力は安定します。教科書レベルはバッチリ！といえるレベルまで基礎基本を仕上げられるよう、夏休み学習をしっかりスケジュールリングしましょう。
- ・ストレスとうまくつき合う 夏休み明け、必要以上に焦りを抱え、志望校を下げたり、受験科目を絞ろうとしたりする人をよく見かけます。共通テストの出願が始まったり、指定校推薦が公示されたりして、気もそぞろ…となってしまうのでしょうか。夏休み明け、一度仕切り直して、学習計画の修正を試みるのがいいでしょう。焦ることは悪くありません。何をどのくらいやらないと得点に直結しないか、各科目の手応えがつかめてきたからこそ焦るのです。基礎固めを優先し、基礎が固まり次第、演習や記述対策に移行する計画を再立案し、地に足をつけて秋を過ごしましょう。

◇自分を信じ、団体戦で受験を乗り切る

- ・周りへのデリカシーを持つ 学校推薦型・総合型選抜などで早めの合格を狙う人、一般選抜に向けて頑張る人、順調に受験勉強が進んでいる人や遅れ気味の人…。さまざまなクラスメイトがいます。周りを慮った言動を心がけ、「みんなで頑張る」雰囲気をつくっていきましょう。一人ではつらい受験も、みんなで闘うムードが追い風になって背中を押してくれます。

- ・受験は団体戦 標高 8,000m, 気温 - 30℃, 酸素濃度は地上の 3 分の 1 という過酷な条件のヒマラヤ山脈を越えて飛ぶ鶴の群れがいます。何度もはね返されながら上昇気流に乗り、空気抵抗を受ける先頭を代わる代わる飛んで体力を温存しながら V 字編隊で飛ぶそうです。チャレンジし続け、みんなで頑張ることが、高い目標クリアにつながるということですね。
- ・自分を信じる 入試本番で頼りになるのは、偏差値という数字ではなく、データに基づいた機械的判定(A~E)でもなく、自分自身です。最後の最後は、理屈ではなく気持ち！自分を信じる強い気持ちをもって受験に臨みましょう。
- ・あきらめない！ 妥協しない！ アフリカの奥地に「お祈りすれば 100%雨が降る」という伝説の未開部族がいます。なぜ 100%なのか？答えは「雨が降るまでお祈りをやめないから」。1 週間でも 1 か月でも雨が降るまで祈り続ける…。あきらめない姿勢で、最後までボールを追ったからこそ生まれた「三苦の 1 ミリ」も記憶に新しいですね。あきらめず、妥協せず、粘り抜いて、第 1 志望校の合格通知を勝ち取りましょう！

・部活動引退

高校生活最後の大会で完全燃焼できるよう、全力で試合や祭典に臨みましょう。結果に関係なく「やりきった」経験は、受験にも生きてきます。今度は受験で「これだけやって不合格なら諦めがつく」というぐらい注力できるよう、気持ちをしっかり切り替えましょう。部活動がなかったら…。部活が終われば…。とタラレバを勉強不足の言い訳にしてきた人…。もう言い訳はできません！

・文化祭・体育祭

学校によっては、高校3年生は学校行事の「お客さん」という高校もありますが、高校生活最後のビッグイベントには納得いくまで取り組むべきだと思います。下級生をリードし、仲間とともに苦労してやり遂げた達成感・成就感をぜひ味わっておきましょう。目標から逆算して段取りを組み、修正を加えながら計画的に物事を進めてやり切った部活動や学校行事の経験は、受験勉強にもきっと活かされます。総合型選抜や学校推薦型選抜において「成長の実感」をアピールすることもできます。

2. 保護者の方と話しておいてほしいこと

◇どれだけお金を出してもらえるか

受験にかかる費用から 4 年間の学費等を実際に計算し、いくらまでならお金を出してもらえるか、遅くとも高3夏休み前の三者面談までには保護者の方に聞きましょう。奨学金や大学独自の減免制度などを詳しく調べておくのも大事です。受験校を決める段階になってからお金の話が「あと出しじゃんけん」のように出てきて三者面談が荒れる…。というケースは避けたいですね。

◇自分の想いを伝え、保護者の想いを知る

一人暮らしを経験させてわが子の自立心を育みたいと考える人もいれば、自宅から通わせたい人もいます。浪人してもよいか絶対現役か、についても同様で受験生と保護者の想いが一致しない場合もあり得ます。保護者を説得できるぐらい強い想いで志望校を決めるのは大切ですが、保護者の事情にも耳を傾けましょう。学びたい大学について、早めに想いを伝えておくことです。

編集部より 毎日を積極的に生きることが、明日の進路につながる。

今回のテーマを突き詰めると

- どんなことにも積極的に取り組む
 - 自分と社会とのつながりを意識する
 - 自分がやりたいことを強く思い続け、表現する
- ということにまとめられるのではないのでしょうか。

それは高校生活を「ポジティブに、外向きに」生きるというふうにも言い換えられそうです。

合格への道は、充実した高校生活から！今日からの高校生活の姿勢に、ぜひ活かしてみてください。